※事務局記入欄

|  |  |
| --- | --- |
| 受付日 | 年　月　日 |
| 受付番号 |  |

**2023年度**

**「きぼう」船内利用フラグシップミッション募集**

**提案書**

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

　有人宇宙技術部門

　きぼう利用センター長　殿

研究代表者

所属機関　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　＿

部署

　　　フリガナ

役職・氏名　　　　　　　　　　　　　　　　　　＿＿

2023年度「きぼう」船内利用フラグシップミッション募集に以下の内容にて申し込みます。

|  |  |
| --- | --- |
| テーマ名(和文) | *40字程度以内* |
| テーマ名(英文) |  |
| キーワード |  |

*（□にチェックを入れてください）*

*チェック欄にチェックのない申請書は受理できませんのでご注意ください。*

|  |
| --- |
| 希望する審査対象委員会  □生命医科学　　□物質物理科学　□合同（生命医科学、物質物理科学） |
| JAXAからの選定結果の通知時に、評価コメントの通知を希望しますか。   * 希望する * 希望しない   なお、上記に係わらず採択者には評価コメントを通知します。また、不採択者には上記記載のない場合は、評価コメントの通知は行いません。 |
| * 「きぼう」利用実験を広くアピールするため、テーマ採択決定後は、「機関名・研究代表者名・テーマ名」をJAXAホームページ等で公開することを、了承します。 |
| * 当該募集の募集案内及び共同研究契約書一式に記載の条件を十分に理解し、同意のうえで、本提案書を提出します。   　　　2023年　　月　　日 |

***（注）赤字・青字・斜字は記入にあっての補足事項です。***

**研 究 体 制**

**1.研究代表者**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 所属機関・部署 |  | | | | |
| 住所  *日本居住者しか応募できません* | 〒 | | | | |
| 電話 |  | | e-mail |  | |
| 国籍  *日本国籍しか応募できません* |  | | みなし輸出特定類型*特定類型非該当者しか応募できません* | * 該当　　　□　非該当 | |
| 研究代表者 | フリガナ |  | | 役職 |  |
| 氏名 |  | |
| 研究項目 |  | | 従事割合 | ％ |
| 分担内容 |  | | | |

*従事割合は、本提案がフライト実験準備フェーズ(具体的な宇宙実験の準備を行うフェーズ)まで進んだ場合を想定した時間の配分率を記入してください。時間の配分率は、「研究者の年間の全仕事時間を100%とした場合、当該研究の実施に必要とする時間の配分率（%）」に基づきます。この際、「全仕事時間」は研究活動の時間だけではなく、教育活動等を含めた実質的な全仕事時間であることに留意してください。なお、e-RAD等で管理されるエフォート率と連動するものではありません。*

**2.研究分担者**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 研究分担者  1 | 研究機関  ・部署 |  | | | |
| 国籍 |  | みなし輸出特定類型 | □該当　　□　非該当 | |
| e-mail |  | | | |
| フリガナ |  | | 役職 |  |
| 氏名 |  | |
| 研究項目 |  | | 従事割合 | ％ |
| 分担内容 |  | | | |
| 研究分担者  2 | 研究機関  ・部署 |  | | | |
| 国籍 |  | みなし輸出特定類型 | □該当　　□　非該当 | |
| e-mail |  | | | |
| フリガナ |  | | 役職 |  |
| 氏名 |  | |
| 研究項目 |  | | 従事割合 | ％ |
| 分担内容 |  | | | |
| 研究分担者  3 | 研究機関  ・部署 |  | | | |
| 国籍 |  | みなし輸出特定類型 | □該当　　□　非該当 | |
| e-mail |  | | | |
| フリガナ |  | | 役職 |  |
| 氏名 |  | |
| 研究項目 |  | | 従事割合 | ％ |
| 分担内容 |  | | | |

**3.契約担当者（研究代表者の所属機関との共同研究契約）**

*選定後、提案書の提出にあたり同意いただいた共同研究契約書(FS)を正式に締結するため、研究代表者の所属機関の契約担当者を記載ください。*

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| フリガナ |  | 部署  役職 |  |
| 氏名 |  |
| e-mail |  | 電話 |  |

**募集対象領域**

|  |
| --- |
| **応募される募集対象領域 A）～M) に、チェックを入れてください。** |
| **～社会課題の解決あるいは知の創造に貢献～**   * + - **健康長寿社会の実現に関する研究**   + **環境・資源の持続性確保に関する研究**   + **知の創造に向けたより挑戦的な研究** * A）【脳神経/臓器連関】　特定の部位・組織に偏らず、全身の様々な組織・臓器を対象とし、複雑に関連する生体制御システムの統合理解をめざし、地上の疾患(神経変性疾患など）対策の立案に貢献する研究 * B)【バイオエコノミー】　植物と微生物の研究領域を融合したバイオエコノミーにおいて、気候変動や食糧問題等の課題解決に貢献する研究 * C)【ナノ医療技術】　ナノテクノロジーを活用した革新的な医療の実現を目指す研究 * D)【CO2回収・エネルギー利用・貯蔵】　カーボンニュートラルに向けた研究　（電気分解（カーボンリサイクル、CO2分解、回収、CO2臨界流体、溶融塩など） * E)【結晶成長/材料創成】　結晶成長機構の解明による半導体材料開発 * F)【ナノ力学制御】　物質循環を可能にする新たな高機能材料の探索　(自己修復など） * M)【基礎研究（A～L除く）】人類の歴史に残る成果が期待できる基礎研究   **～人類の宇宙(特に月・火星）進出貢献～**   * **人類の宇宙進出に向けた研究** * G)【生殖系】　人類の宇宙進出に向け動物モデルによる継世代影響及び生殖能力への影響に係る研究 * H)【性差】　人類の宇宙進出に向け動物モデルによる性差に係る研究   + I)【バイオマーカー/分析・計測技術】　人類の宇宙進出に向け健康管理技術に係る研究　（バイオマーカー、計測・診断装置など） * J)【物質循環】　月・火星での資源循環システムの構築に係る研究（食料生産、現地資源利用など） * K)【生命維持】　安全な長期宇宙探査に向けた生命維持機構に関する技術開発・研究（人工冬眠等による低エネルギー生命活動の可能性の探求、生理機能の理解および技術開発） * L)【メカノバイオロジー】　メカノバイオロジー機構の解明による革新的医療機器及び医療技術の創出 |
| **テーマ名(和文)**表紙の同じものを記入ください。 |
|  |

**提 案 内 容**

*（1項～7項までの範囲で、A4・15ページ程度、文字サイズ12ポイント程度）*

|  |
| --- |
| **1. 提案実験の概要** |
| **1.1　実験概要**　(400字以内) |
|  |
| **1.2　成果活用の道筋**（200字以内。6.項の要約）   * + - * 【社会課題解決A)～F)】   「きぼう」利用によって社会課題の解決に貢献できること。すなわち、「きぼう」利用の成果が社会課題の解決につながり、産業の発展や社会貢献等、国民への還元にどのように寄与するのか（成果活用）の見通し・ビジョンを記載   * 【知の創造M)】   「きぼう｣利用の成果が世界的に特に優れた科学的成果・技術的成果の創出や我が国の科学技術イノベーションの創出に貢献できること。すなわち、「きぼう」利用の成果が科学技術、産業・社会等の発展等にどのようにつながるのか（成果の活用）の見通し・ビジョンを記載   * + - * 【人類の宇宙進出G）～L)】   「きぼう｣利用の成果が世界的に特に優れた科学的成果・技術的成果の創出や我が国の科学技術イノベーションの創出に貢献できること。すなわち、「きぼう」利用の成果が科学技術、有人宇宙探査、ポストISS・地球低軌道利用、産業・社会等の発展等にどのようにつながるのか（成果の活用）の見通し・ビジョンを記載 |
|  |
| **1.3　募集対象領域 A）～M)との整合性**（200字以内）  **整合性が認められない場合は、募集対象外**となります。 |
|  |
| **1.4　募集対象範囲との整合性**  **以下に該当する場合は、募集対象外**となります。   * 臨床研究法の対象とみなされる研究 * 研究対象者として6名程度を超える宇宙飛行士が必要。 * 宇宙実験に関係しない地上実験のみの研究 * 他に募集等の仕組みがある研究領域（募集案内2項(3)参照）。 * 人文社会科学関係の提案。 * 教育関係の提案。 * 有償で「きぼう」等を利用する提案。 |
| □　上記のいずれにも該当しないことを、確認した。  *（チェックを入れてください）*  *いずれかに該当する場合は、応募できません。* |

|  |
| --- |
| **2. 宇宙実験の目的・内容**  提案の前提となるようなデータ等を含めて具体的に記入してください。 |
| **2.1 宇宙実験の目的・期待される結果** |
|  |
| **2.2 背景・国内外の関連研究の現状** |
|  |
| **2.3 実験の革新性・斬新性・独創性** |
|  |
| **2.4 宇宙で実験する必然性** |
|  |

|  |  |
| --- | --- |
| **3. 過去に採択された外部資金**  過去に採択された競争的資金（国の競争的資金、民間団体の研究費助成など）を、10件程度まで、最近のもの、本提案に関係のあるものを主に記入ください。 | |
| * + 1. **競争的資金等の名称** |  |
| * + 1. **研究課題名** |  |
| * + 1. **代表研究者** |  |
| * + 1. **研究期間** |  |
| **⑤配分額/資金規模** |  |

|  |
| --- |
| **4. 成果活用の道筋**   * 【社会課題解決A)～F)】   「きぼう」利用によって社会課題の解決に貢献できること。すなわち、「きぼう」利用の成果が社会課題の解決につながり、産業の発展や社会貢献等、国民への還元にどのように寄与するのか（成果活用）の見通し・ビジョンを記載   * 【知の創造M)】   「きぼう｣利用の成果が世界的に特に優れた科学的成果・技術的成果の創出や我が国の科学技術イノベーションの創出に貢献できること。すなわち、「きぼう」利用の成果が科学技術、産業・社会等の発展等にどのようにつながるのか（成果の活用）の見通し・ビジョンを記載   * 【人類の宇宙進出G）～L)】   「きぼう｣利用の成果が世界的に特に優れた科学的成果・技術的成果の創出や我が国の科学技術イノベーションの創出に貢献できること。すなわち、「きぼう」利用の成果が科学技術、有人宇宙探査、ポストISS・地球低軌道利用、産業・社会等の発展等にどのようにつながるのか（成果の活用）の見通し・ビジョンを記載 |
|  |
| **5. 提案のもとになる過去の技術・実績等に関連する文献**  **（選考過程において参考となる文献5件程度まで）** |
|  |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **6. 宇宙実験の内容**  （以下は、提案時点で記入できる範囲で記入下さい。） | | | | | |
| **6.1宇宙実験で必要な試料数量、実験条件等**  *(注)必須条件ではありませんが、以下の場合、実験の実現性が低下します。*  *（クルー作業時間が多い、打上・回収質量が多い、冷蔵冷凍品が多い、打上直前/打上直後/回収直前/回収直後の要求が多い・厳しい、新規装置開発が必要、作業実施期日の制約が厳しいなど。）*  詳細は、募集案内･参考3及び船内利用ハンドブックⅡ項を参照ください。不明な点等あれば、船内フラグシップミッション募集係までご連絡ください。 | | | | | |
| **○各分野共通（宇宙飛行士対象実験を除く）** | | | | | |
| 1 | 実験期間 | 日間 | | | *(注)期間が長いほど実現性が低下します。* |
| 2 | 実験温度 | 打ち上げ | | ℃ | *(注)冷蔵・冷凍・温度維持の要求が多い・厳しいほど実現性が低下します。*  軌道上環境は、通常、「冷蔵+2℃、冷凍-95℃、室温18～27℃」です。  打上･回収の環境は、通常「冷蔵+4℃、冷凍-95℃、室温15～30℃」です。 |
| 軌道上実験 | | ℃ |
| 軌道上保管（実験前） | | ℃ |
| 軌道上保管（実験後） | | ℃ |
| 回収時 | | ℃ |
| 3 | 実験試料 |  | | | |
| 4 | 装置等 | 利用希望装置  利用する装置に「チェック」を入れてください。 | □ 細胞培養装置（CBEF）／□ 細胞培養装置追加実験エリア（CBEF-L）  □ 生物実験ユニット（BEU）  □ 植物実験ユニット（PEU）、□ 計測ユニット（MEU）  □ 小動物飼育装置（MHU）  □ 省力型小動物飼育装置（SMART）(開発中)  □ 遺伝子機能発光イメージング解析装置（TELLAS）  □ 打上/回収支援装置　（TCU）  □ 多目的実験ラック(MSPR)  □ 受動・積算型宇宙放射線被ばく線量計測（PADLES）  □ 顕微鏡観察システム（Microscope Observation System）  　　□ 蛍光顕微鏡、□ 共焦点顕微鏡  □ 燃焼実験チャンバ(CCE)  □ 固体燃焼実験装置（SCEM）  □ 静電浮遊炉（ELF）  □ 微小重力計測装置（MMA）  □ エアロック（船内スペースのみ）  □ 画像取得処理装置（IPU）  □ 軌道上冷凍・冷蔵庫  □ その他(※)（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  　※JAXA/HPに記載されている、過去に軌道上実験で使用したテーマ専用装置などについては、利用できる場合もありますが、すでに廃棄済みあるいは長期間メンテナンスを実施していないなどの理由で、機能確認・復旧に見込まれるリソース等から利用困難とJAXAが判断する場合は新規開発を前提とすることになります。  →　この場合、提案者にてフライト品の整備・検証・持ち込みが可能か。  （□提案者にて持ち込み可能、　□持ち込み不可）  *(注)新規の装置・供試体の開発がJAXAで必要な場合、実現性は低下します。* | | |
|
| 新規の装置・供試体  (新規開発) |  | | *(注)新規の装置・供試体の開発が必要な場合、実現性は低下します。* |
|
| 5 | 重量 | 打ち上げ時 |  | | *(注)重量が多いほど実現性が低下します。* |
| 回収時 |  | |
| 6 | 冷蔵・冷凍容積 | 打ち上げ時 |  | | *(注)容積が大きいほど実現性が低下します。* |
| 軌道上 |  | |
| 回収時 |  | |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **○宇宙飛行士を対象とする実験　（該当する場合）** | | | | | | |
| 1 | 研究対象者数 | | 名　*（6名程度以下）* | | | |
| 2 | 飛行士への活動制限  （運動,食事,薬など）*（□にチェックを入れてください。）* | | □なし　　　□あり**(注)**（　　　　）　　　*(注）実現性が低下します* | | | |
| 3 | 打上から回収までの 試料・器材の保管温度 | | 打ち上げ時 | ℃ | *(注)冷蔵・冷凍・温度維持の要求が多い・厳しいほど実現性が低下します。*  軌道上環境は、通常、「冷蔵+2℃、冷凍-95℃、室温18～27℃」です。  打上･回収の環境は、通常「冷蔵+4℃、冷凍-95℃、室温15～30℃」です。 | |
| 軌道上実験 | ℃ |
| 軌道上保管（実験前） | ℃ |
| 軌道上保管（実験後） | ℃ |
| 回収時 | ℃ |
| 4 | 試料・データ取得条件  *(注)条件が厳しいほど実現性は低下します。* |  | Pre BDC※1 | 飛行中 | | Post BDC※1 |
| 試料・データ取得時期 |  |  | |  |
| クルータイム・BDC時間 |  |  | |  |
| 取得する試料・データの名称及び数量 |  |  | |  |
| その他 |  |  | |  |
| 5 | 装置等  *(□にチェックを入れてください。)* | 軌道上の利用希望装置 | □ 遠心分離機  □ 軌道上冷凍・冷蔵庫  □ その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | |
| 軌道上への打上・利用希望の固有の機器・器材等 | 軌道上へ打ち上げ、利用を希望する固有の機器・器材等は、日本において医療機器として届出または承認された機器か。  □はい　　　□いいえ  機器・器材等の一般名称・製造会社・製品番号・重量・寸法をリストで示して下さい。 | | *(注)新規装置開発・搭載化が必要な場合、実現性が低下します。* | |
| 軌道上で利用希望の備品・消耗品 |  | | | |
| BDC実施場所の利用希望装置 | □ 遠心分離機  □ 冷凍・冷蔵庫  □ その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | |
| BDC実施場所へ輸送・利用希望の固有の機器・器材等 | BDC実施場所（米国等の海外）へ輸送、利用を希望する固有の機器・器材等は、日本において医療機器として届出または承認された機器か。  □はい　　　□いいえ  機器・器材等の一般名称・製造会社・製品番号・重量・寸法をリストで示して下さい。 | | | |
| BDC実施場所で利用希望の備品・消耗品 |  | | | |
| 6 | 重量 | 打ち上げ時 |  | | *(注)重量、容積が多いほど実現性が低下します。* | |
| 回収時 |  | |
| 7 | 冷蔵・冷凍容積 | 打ち上げ時 |  | | *(注)容積が大きいほど実現性が低下します* | |
| 軌道上 |  | |
| 回収時 |  | |
| ※1 BDC：　Baseline Crew Data Collection(地上でのデータ取得実験)。  Pre BDC： 打ち上げ前のBDC。  Post BDC：　帰還後のBDC。 | | | | | | |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ○主な制約事項の確認  *以下に該当する場合、実験の実現性が低下します。必須の制約ではありませんが、目安としてください。*  詳細は、募集案内･参考3及び船内利用ハンドブックⅡ項を参照ください。不明な点等あれば、船内フラグシップミッション募集係までご連絡ください。 | | | | |
|  | フェーズ | 実現性低下となる要求(例)  *（□にチェックを入れてください）* | | 備考 |
| 1 | 打上前準備 | 打上直前に打上機側への試料・器材の引渡しを要求する。 | □要求する（　　日前）  □要求しない | 通常、打上1～3ヶ月程度前の引渡。  生物試料等の場合、打上3日程度前の引渡。 |
| 打上前の試料等引渡直前に射場での研究チームによる準備作業を要求する。 | □要求する  □要求しない | － |
| 2 | 打上時期  ・延期 | 打上直前の打上日変更に試料準備等が対応できない。 | □できない  □できる | 天候等により打上日は直前にも変更されますので、対応できるようにしておく必要あります。 |
| 2 | 打上  フェーズ  （打上から「きぼう」への移設まで） | 打上試料･器材の容積は備考の目安より大きい。 | □大きい  □小さい | 20L程度以下を目安。 |
| 打上試料・器材の質量は備考の目安より大きい。 | □大きい  □小さい | ヒト対象実験：7.5kg以下を目安  その他の実験：10kg以下を目安 |
| 打上試料･器材は電力を要求する。 | □ある(　　)  □ない | － |
| 打上試料･器材は冷蔵、冷凍、温度維持要求がある。 | □ある(　　)  □ない | 打上時の環境は、通常「冷蔵+4℃、冷凍-95℃、室温15～30℃」です。 |
| 地上引渡から軌道上作業着手までの間（最短5日以上）、人のアクセスなしで、試料・器材は維持できない。  (注)クルー作業を要求できません。 | □できない  （　　　　）  □できる | 生物試料等において、打上からISSに到着後、作業に着手できるまでの期間は、概算以下のとおりです。カッコ内は最短ケース。  ・引渡～打上：3日程度以上(1日)  ・打上延期：2日以上(0日)  ・打上～ISS到着：5日程度以上(3日)  ・ISS到着～作業着手：1日以上(1日) |
| 3 | 軌道上実験  フェーズ | クルー作業時間は備考の目安より多い。 | □多い  □少ない | 手順書を読む時間、装置準備・後処置時間なども含む。  軌道上では地上での作業時間の2倍程度の時間が必要です。  ヒト対象実験：12時間以下（地上では6時間以下）目安  その他の実験：10時間以下（地上では5時間以下）目安 |
| 4 | 回収  フェーズ  （「きぼう」からの移設から地上回収まで） | 回収試料の容積は備考の目安より大きい。 | □大きい  □小さい | 1L程度以下を目安。 |
| 回収試料の質量は備考の目安より大きい。 | □大きい  □少ない | ヒト対象実験：1.5kg以下目安  その他の実験：1kg以下目安 |
| 回収試料は電力を要求する。 | □ある(　　)  □ない | － |
| 回収試料は冷蔵、冷凍、温度維持要求がある。 | □ある(　　)  □ない | 回収時の環境は、通常「冷蔵+4℃、冷凍-95℃、室温15～30℃」です。 |
| 回収試料の冷蔵･冷凍容積は備考の目安より大きい。 | □大きい  □小さい | ヒト対象実験：3L以下目安  その他の実験：1L以下目安 |
| 回収機への移設作業開始から地上引渡までの間、人のアクセスなしで、試料を維持できない。 | □できない  □できる | 生物試料等において軌道上作業終了から地上引渡までの期間は、概算以下のとおりです。（アンドック延期は考慮せず）  ・移設開始～回収：2日程度  ・回収から引渡：3日程度 |
| 5 | 回収後  フェーズ | 回収直後の試料引き渡しを要求する。 | □要求する  □要求しない | 通常回収から1ヶ月程度後に引渡。  生物試料等の場合、回収3日程度後の引渡。 |
| 6 | ベースデータ取得（BDC） | 1回のBDCあたりの作業時間は備考の目安より多い。 | □多い  □少ない | 1時間以下目安 |
| BDCにあたり、通常の臨床検査(血液、尿、唾液、便など)の作業範囲でできるもので、研究者自らが米国等へ出張して直接実施することを要求する。 | □要求する  □要求しない |  |
| BDCにあたり、被験者スクリーニングを要求する。 | □要求する  □要求しない |  |

|  |  |
| --- | --- |
| **6.2　宇宙実験の手順（BDCを含む）**  *(注)以下の場合、実現性が低下します。*  *（クルー作業時間が多い、打上直前/打上直後/回収直前/回収直後の要求が多い・厳しい、作業実施期日の制約が厳しいなど。）*  詳細は、募集案内の参考３及び船内利用ハンドブックⅡ項を参照ください。 | |
|  | |
| **6.3　宇宙実験データ及び回収試料の解析計画** | |
|  | |
| **6.4　実験成果公表までの見通し･時期**  *最終のデータあるいは試料引き渡しから、1年後の解析進捗状況報告、2年後の最終報告が原則です。* | |
|  | |
| **7. 過去に宇宙実験を実施したことがある場合の本提案との関連性　(該当する場合)**  現在宇宙実験を実施中、またはJAXAと宇宙実験の準備を実施中の場合も含む。また、研究代表者の場合だけでなく研究分担者として関わっている場合も含む | |
| *＜いずれかにチェックを入れてください＞*  ①□　過去に実施した宇宙実験とは関連性がない（今回は全く新しい提案である。）  ②□　過去に実施した宇宙実験と関連性がある。 | |
| **上記で②の「関連性がある」を選択された方は、以下をご記入ください。** | |
| **(1)　該当するテーマのテーマ名及び研究代表者名** | |
| **テーマ名** |  |
| **研究代表者名** |  |
| **(2)　過去に実施した宇宙実験との関連性や違い(今回の実験の位置づけ、発展性、過去の宇宙実験の成果をまとめた論文等)** | |
|  | |

|  |
| --- |
| ●　アンケート  （選考とは関係ありません。次回の募集に向けてご協力をお願いいたします。） |
| 今後の地球低軌道利用での実験募集、軌道上実験で取得済みのデータやサンプルを活用するアイデア、意見などを、ご自由にご記載ください。  JAXAが過去に実施した実験については、  「https://humans-in-space.jaxa.jp/kibouser/subject/」を参照ください。 |
|  |

|  |
| --- |
| **生 命 倫 理 お よ び 安 全 面 へ の 配 慮**  ***（****□にチェックを入れてください）* |
| □ヒト（ヒト又はヒト由来試料）を対象とする研究  　　所属機関倫理審査委員会等の有無　　　　□有　　□無  □動物実験（脊椎動物）を対象とする研究  　　所属機関動物実験委員会等の有無　　　　□有　　□無  □どちらにも該当しない |
| 【生命倫理および安全面への配慮】 |

*ヒト（ヒト又はヒト由来試料（細胞バンク登録細胞を含む））および脊椎動物（その受精卵、胚、受精卵、初代培養細胞を含む）を対象とするテーマについては、所属機関内の倫理審査委員会等の有無をあわせて、該当する項目にチェックしてください。どちらも対象としないテーマについては、「どちらにも該当しない」にチェックしてください。*

*ヒト由来試料を用いた宇宙実験を計画する場合、この募集の範囲では軌道上で試料を採取することはできません。地上で調製するヒト由来試料の利用は可能です。*

*ヒト（ヒト又はヒト由来試料（排泄物、分泌物、細胞バンク登録細胞を含む））および脊椎動物（その受精卵、胚、受精卵、初代培養細胞を含む）を対象とするテーマについては、別表の法令等を参照し、以下の事項について記述してください。*

* *提案する内容と関連する法令及び指針等との関係、倫理面・安全対策面（動物等を科学上の利用に供する場合の配慮を含む）において講じるべき措置と対応状況について「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針に従い、施設内の倫理委員会およびJAXAの該当する委員会において計画の承認を受けて実施する。」など具体的に記述してください。特に問題がないと判断した場合には、その理由等について記述してください。*
* *社会的コンセンサスを必要とするテーマや、ヒト由来試料を用いるテーマについては、ヒト由来試料の提供者等に対する人権および利益の保護の取扱いに十分配慮する必要があります。試料提供者等に対する人権擁護上の配慮、不利益・危険性の排除の説明と理解（インフォームドコンセント）に関わる状況等を必ず記述してください。*

*別表　ヒト対象テーマと関連する法令及び指針等*

|  |  |
| --- | --- |
| *提案に含まれる内容* | *関係法令及び指針等* |
| *ヒトを対象とする提案* | *・人を対象とする医学系研究に関する倫理指針* |
| *特定胚の取扱いを含む提案* | *・ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律* |
| *・特定胚の取扱いに関する指針* |
| *・ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律施行規則* |
| *遺伝子組換え実験を含む提案* | *・遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物多様性の確保に関する法律（いわゆるカルタヘナ法）* |
| *ヒトゲノム・遺伝子解析を含む提案* | *・ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針* |
| *・遺伝子治療臨床研究に関する倫理指針* |
| *ヒトES細胞の樹立及び使用を含む提案* | *・ヒトES細胞の樹立及び使用に関する指針* |
| *再生医療を含む提案* | *・再生医療等の安全性確保等に関する法律* |
| *動物実験を含む提案* | *・研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針* |

*詳細は以下のホームページをご覧ください。*

*・文部科学省ホームページ「人を対象とする医学系研究（疫学研究を含む。）」*

[*http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/ekigaku.html*](http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/ekigaku.html)

*・文部科学省ホームページ「生命倫理・安全に対する取組」*

[*http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/index.html*](http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/index.html)

*・文部科学省ライフサイエンス課ホームページ（動物実験等の基本指針説明会資料）*

[*http://www.lifescience.mext.go.jp/policies/dobutsu.html*](http://www.lifescience.mext.go.jp/policies/dobutsu.html)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **経 歴 お よ び 業 績 等**  *（研究者毎に作成、1人につきA4用紙2ページ以内）*  *（□にチェックを入れてください）* | | |
| ＜□研究代表者　　□研究分担者No.(　)＞ | | |
| 1.経歴 | | |
| (1)氏名(フリガナ) | |  |
| (2)所属機関および役職名 | |  |
| (3)年齢  （2023年3月31日時点） | |  |
| (4)学位  ・授与機関名  ・学位名  ・取得年 | |  |
| (5)研究経歴 | |  |
| (6)専門分野 | |  |
| 2. 発表論文名/著書名  *学術誌等に発表した論文、著書等のうち、本提案に関連する主要なものを選んで、現在から順に発表年次を過去に溯り、番号を付して記述してください。これら以外にも研究提案を理解する上で必要と思われる論文がある場合には、関連論文として追加してください。*  *【著者（著者は全て記入）・発表論文名・掲載誌・巻号・ページ・発表年】* | | |
|  | | |
| 3. 関連する取得特許 | | |
|  | | |
| 4. 関連する競争的資金制度（国の競争的資金、民間団体等からの助成など）での採択実績 | | |
| (1)競争的資金･補助金等の名称 |  | |
| (2)担当府省･機関 |  | |
| (3)研究課題名 |  | |
| (4)代表研究者名 |  | |
| (5)研究期間 |  | |
| (6)総予算 |  | |
| (7)各年予算 |  | |